

全数及び定点(週単位報告)把握対象疾患

- 発生動向の概況 《2005年28週》
- 定点医療機関からのコメント
- 全数把握対象疾患 患者報告数
- 五類定点把握対象疾患 患者報告数
 - 男女別
 - 推移グラフ
 - 保健所別
 - 保健所別(定点当たり)
 - 年齢階級別
- 病原体・抗体検査情報
 - 週別検出状況
 - 臨床診断名別検出結果
- 感染症豆知識「狂犬病」

東京都医師会感染症予防検討委員会

事務局:東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話:03-3363-3213(直通)

FAX:03-5332-7365

E-mail: idsc@tokyo-eiken.go.jp

アドレス: idsc.tokyo-eiken.go.jp/



全数及び定点(週単位報告)把握対象疾患

発生動向の概況 《2005年28週》

(全数把握対象疾患)

・今週報告された腸管出血性大腸菌感染症12症例中2症例で焼肉の喫食が確認されている。また、O157 VT1・VT2の1症例は27週に報告された症例の家族である。

区分	疾患	報告件数	情報 (検出病原体・血清型・推定感染経路等)	推定感染地
二類	細菌性赤痢	4	フレキシネル菌2件	インドネシア、 ガーナ
			ソネ菌2件、同一インドツアー	インド
三類	腸管出血性大腸菌感染症	12	O157 VT1(2件)、O157 VT2(2件)、 O157 VT1・VT2(5件) O26VT1(3件)	国内
四類	E型肝炎	1	推定感染経路: 飲食等による経口感染	ネパール
	Q熱	1		国内
	マラリア	1	熱帯熱マラリア	ガーナ
	レジオネラ症	1	推定感染経路: 不明	国内
五類	HIV感染症	8	無症候性キャリア7件、AIDS1件 推定感染経路: 異性間性的接触3件、 同性間性的接触5件	国内7件、不明1件

(推定される感染地は医師の届出によるものである。)

(定点把握対象疾患 ー小児科・インフルエンザ・眼科・基幹定点ー)

・ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱の報告数は先週より減少したが、手足口病は増加している。流行性耳下腺炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数も依然として多い。

(検査情報)

・先週に引き続き、エンテロウイルスの検出が多い。

臨床診断名等	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
ヘルパンギーナ	4	咽頭拭い液	エンテロウイルス、アデノウイルス	遺伝子
ヘルパンギーナ	2	咽頭拭い液	エンテロウイルス、単純ヘルペスウイルス	
熱性けいれん、ヘルパンギーナ	3	咽頭拭い液	エンテロウイルス、アデノウイルス	

臨床診断名等	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
熱性けいれん	2	咽頭拭い液	エンテロウイルス、アデノウイルス、ヒトヘルペスウイルス6型	遺伝子
熱性けいれん	5	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
無菌性髄膜炎	3	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
髄膜炎	6	髄液	エンテロウイルス	
脊髄炎	54	髄液	単純ヘルペスウイルス	
頸部リンパ節炎	4	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
不明熱	11	咽頭拭い液	アデノウイルス	
咽頭炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス、ヒトヘルペスウイルス6型	
咽頭炎	0	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
上気道炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス	
急性気管支炎	1	咽頭拭い液	サイトメガロウイルス	
急性肺炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス	
肺炎 急性胃腸炎	不明	糞便	エンテロウイルス	
発しん症	2	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
不明発しん症	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
下痢症	23	糞便	ソネ菌	生化学的性状 &血清型試験

腸管出血性大腸菌 菌株検査情報

血清型	産生毒素			合計
	VT1	VT2	VT1・VT2	
O157		2	7	9

ウイルス性胃腸炎(集団事例)検査情報

検査区分	検査試料数	陽性数	ノロウイルス		ロタウイルス	その他
			G I	G II		
施設内感染疑いまたは食中毒等	66	0				

定点医療機関からのコメント

今週は定点医療機関からのコメントはありませんでした。

全数把握対象疾患 患者報告数 2005年28週

分類	疾病名	東京都分(報告週)					全国分(診断週)	
		25週	26週	27週	28週	年累計	28週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	重症急性呼吸器症候群							
	痘そう							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	コレラ					3		26
	細菌性赤痢	1	2		4	46	17	301
	ジフテリア							
	腸チフス					4	1	24
パラチフス					3		7	
三類	腸管出血性大腸菌感染症	6	11	7	12	64	169	1204
四類	E型肝炎				1	5	(1)	(29)
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎			1		13	(5)	(120)
	エキノコックス症							11
	黄熱							
	オウム病					2		23
	回帰熱							
	Q熱				1	3	1	7
	狂犬病							
	高病原性鳥インフルエンザ							
	コクシジオイデス症							1
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	炭疽							
	つつが虫病					3	2	94
	デング熱					4		16
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						1	18
	日本脳炎							
	ハンタウイルス肺症候群							
Bウイルス病								
ブルセラ症								
発しんチフス								
ボツリヌス症					1			
マラリア	1	1		1	10	1	33	
野兔症								
ライム病						1	1	
リッサウイルス感染症								
レジオネラ症			2	1	10	7	95	
レプトスピラ症					1		(3)	
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	5	9	6		100	6	370
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)	1		1		27	1	160
	急性脳炎		2			12	()	(119)
	クリプトスポリジウム症					1		5
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1			10	1	71
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					2	1	32
	後天性免疫不全症候群	6	19	8	8	235	11	614
	ジアルジア症	1		1		8		36
	髄膜炎菌性髄膜炎					2		7
	先天性風しん症候群							
	梅毒		2	2		40	5	274
	破傷風					1	2	49
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1		8	1	38	

2005/07/26集計

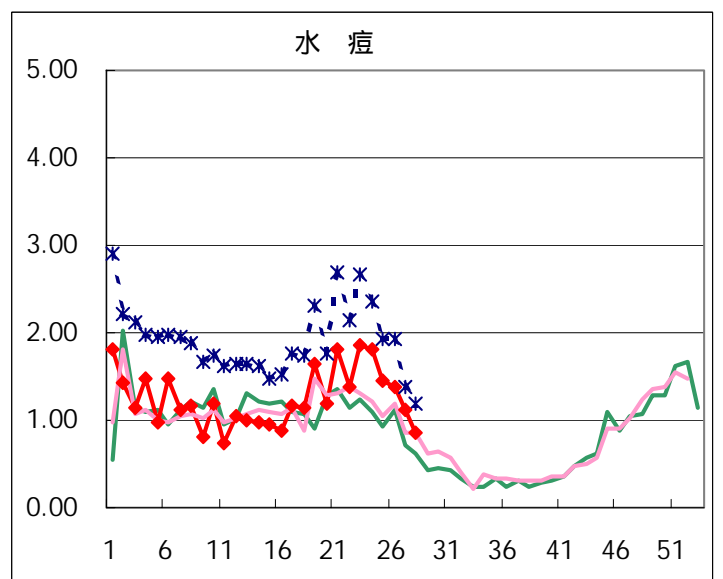
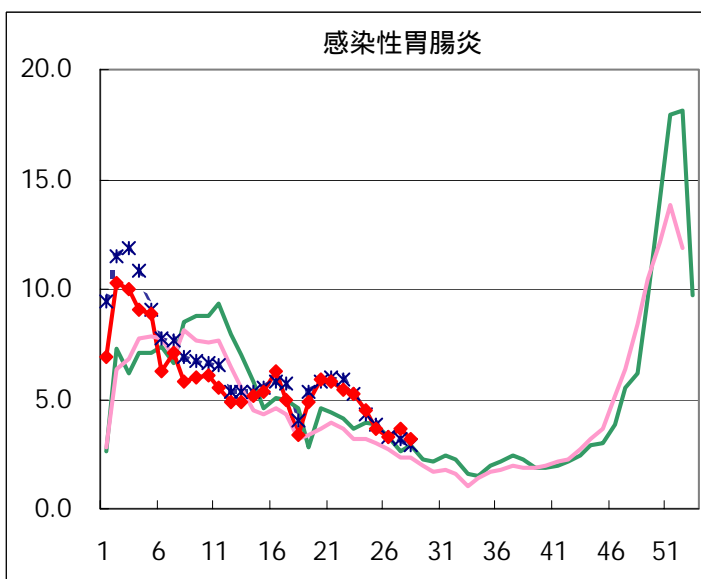
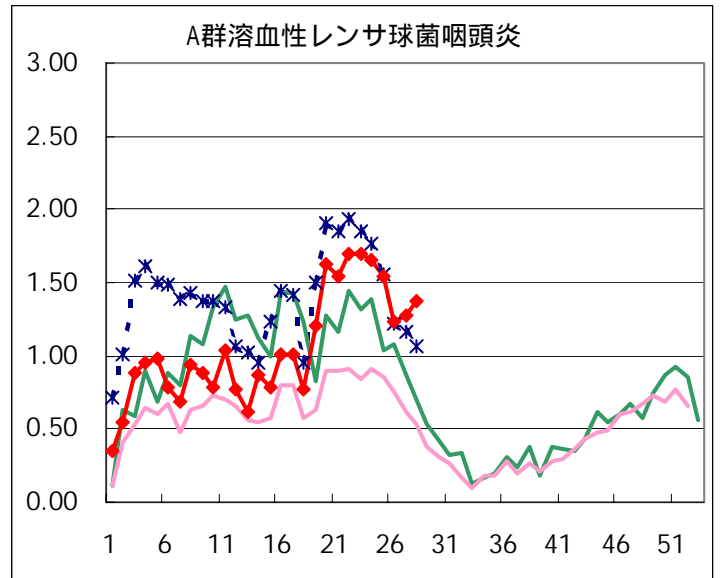
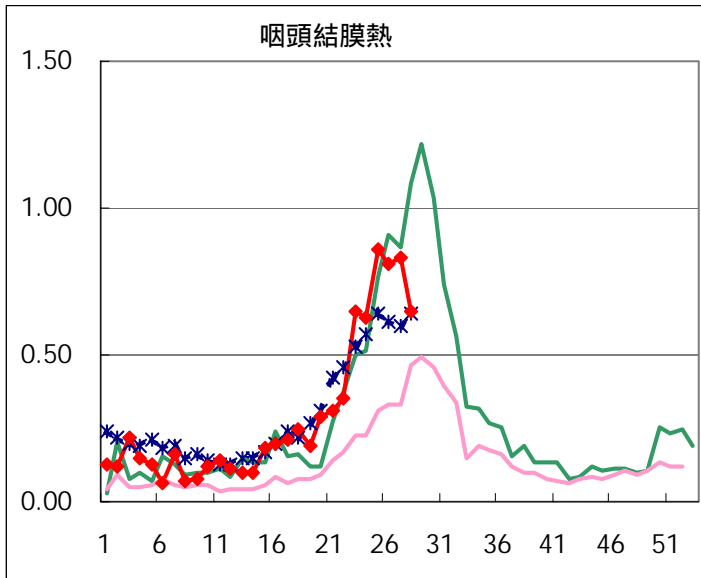
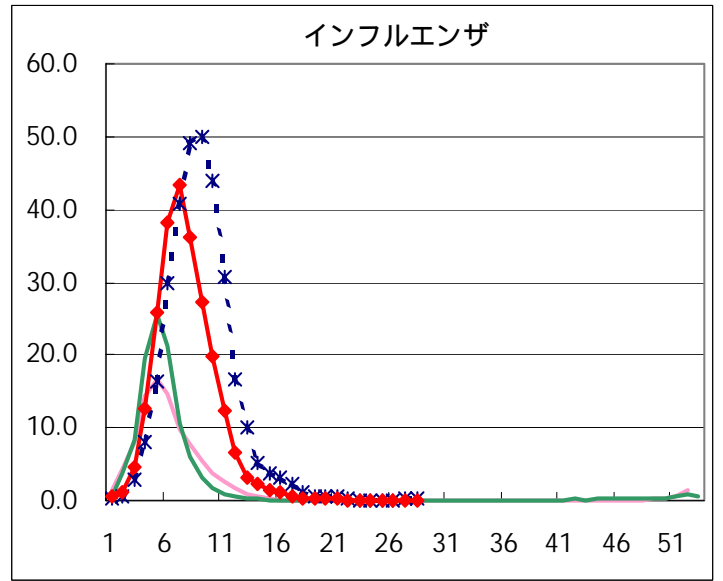
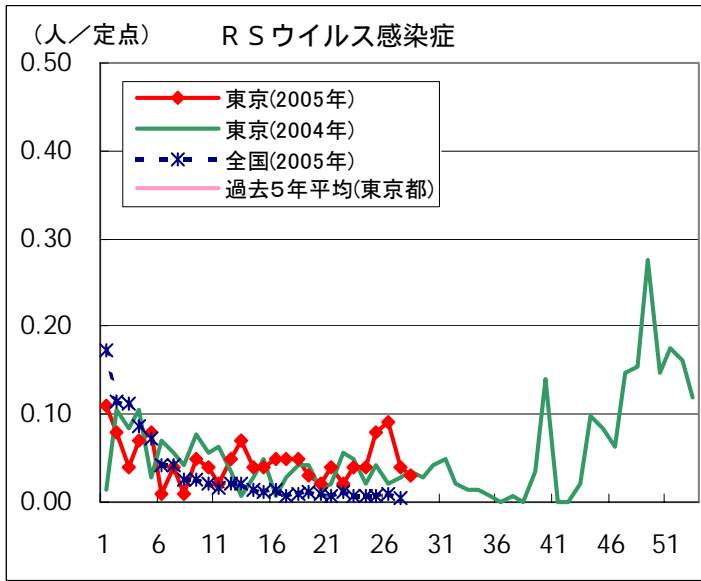
(カッコ内の数値は27週分)

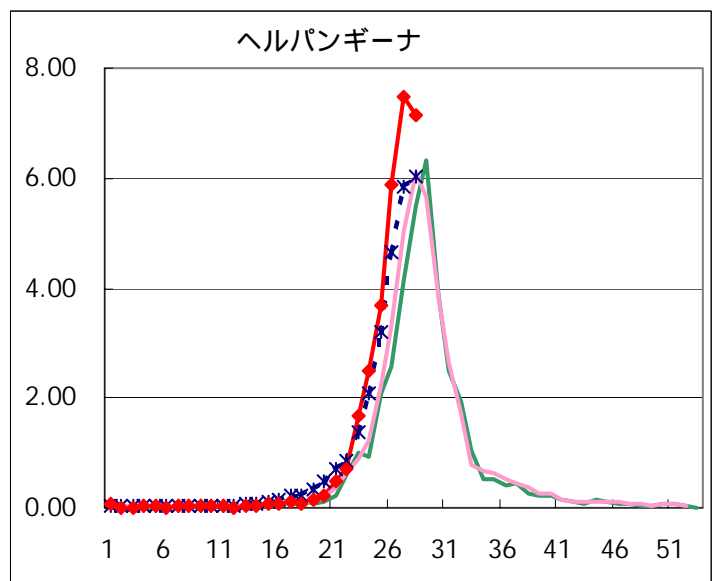
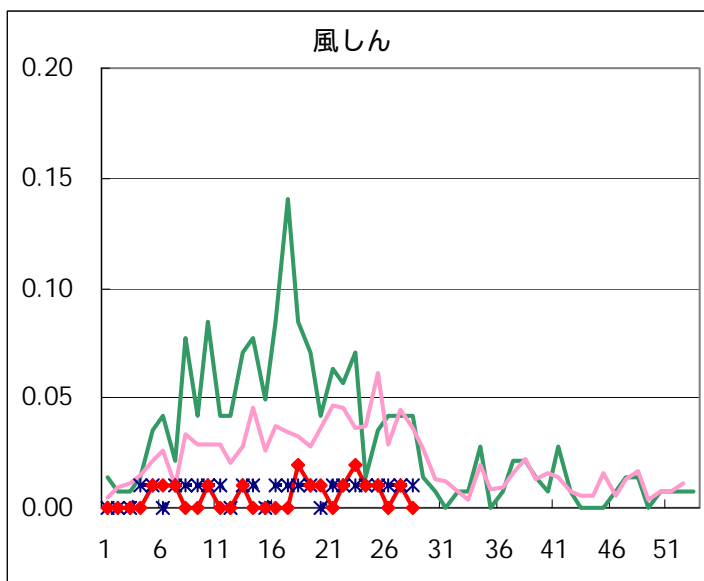
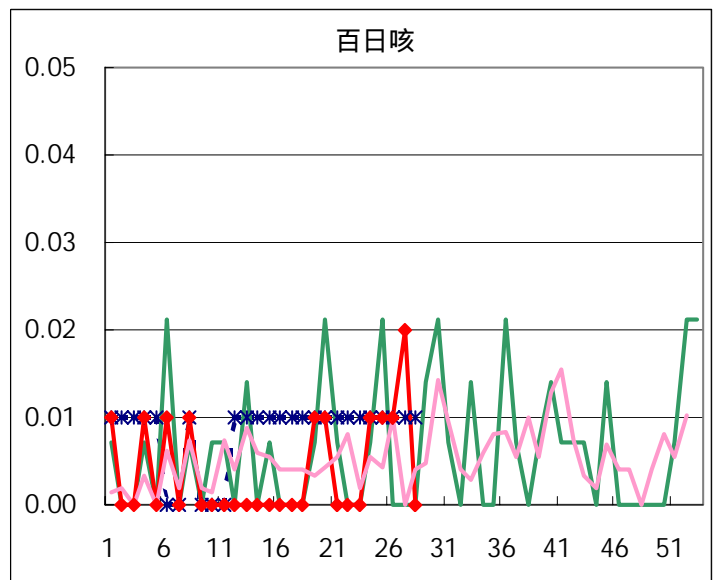
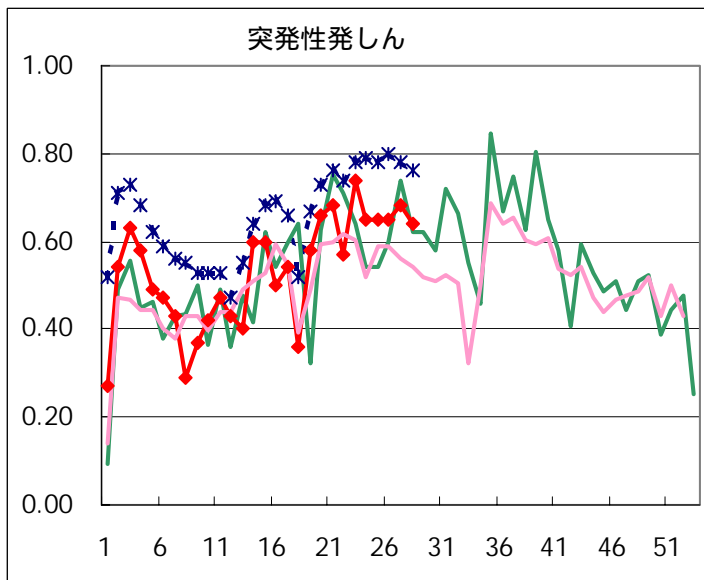
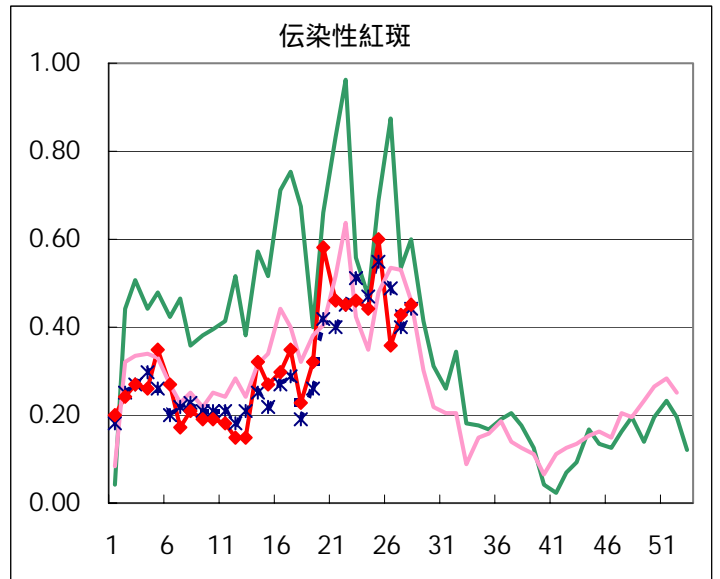
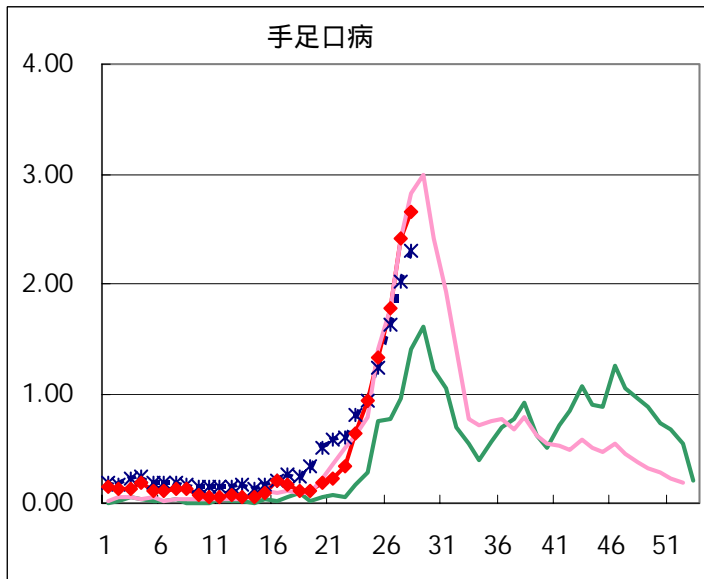
五類定点把握対象疾患 患者報告数【男女別】 2005年28週

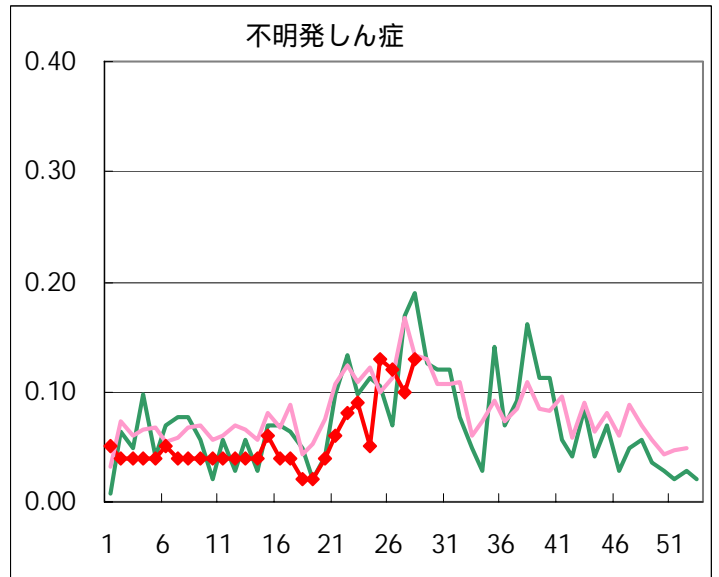
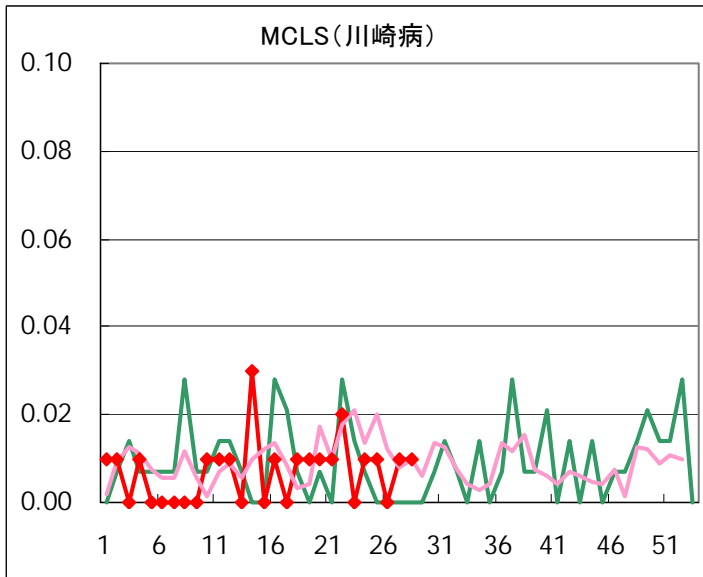
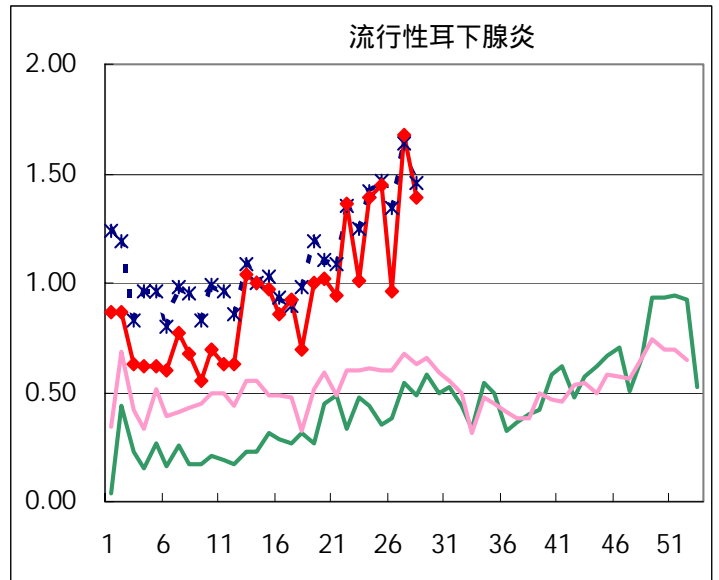
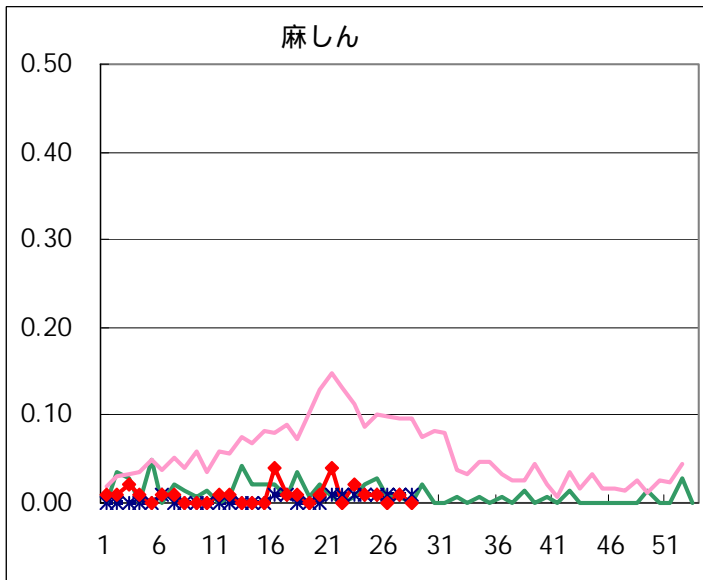
疾病名	性	2005年				4週合計	年累計
		25	26	27	28		
RSウイルス感染症	男	5	6	3	2	16	103
	女	6	7	2	2	17	82
インフルエンザ	男	2		2		4	20,997
	女			1		1	21,378
咽頭結膜熱	男	58	65	65	50	238	625
	女	64	50	53	43	210	524
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	男	122	100	97	96	415	2,271
	女	96	74	84	99	353	1,917
感染性胃腸炎	男	282	249	281	261	1,073	11,871
	女	238	221	234	186	879	11,162
水痘	男	111	111	92	55	369	2,651
	女	95	85	68	66	314	2,329
手足口病	男	103	151	202	200	656	1,016
	女	85	100	140	178	503	780
伝染性紅斑	男	38	25	28	25	116	608
	女	47	26	33	39	145	650
突発性発しん	男	49	46	46	41	182	1,084
	女	44	46	51	50	191	1,033
百日咳	男	1	1	2		4	9
	女			1		1	5
風しん	男			2		2	9
	女	1				1	12
ヘルパンギーナ	男	267	422	558	543	1,790	2,252
	女	258	412	505	473	1,648	2,100
麻しん(成人麻しんを除く)	男	1		1		2	14
	女			1		1	19
流行性耳下腺炎	男	117	73	140	94	424	1,997
	女	89	64	98	103	354	1,679
不明発しん症	男	11	9	7	15	42	131
	女	8	8	7	3	26	88
MCLS	男			1		1	16
	女	1			1	2	10
急性出血性結膜炎	男				1	1	4
	女						1
流行性角結膜炎	男	10	9	5	4	28	157
	女	2	3	7	10	22	126
細菌性髄膜炎	男						4
	女						3
無菌性髄膜炎	男			2		2	9
	女		3			3	5
マイコプラズマ肺炎	男	1			2	3	38
	女				2	2	32
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	男						2
	女						2
成人麻しん	男						
	女						

五類定点把握対象疾患 患者報告数【推移グラフ】 2005年28週現在

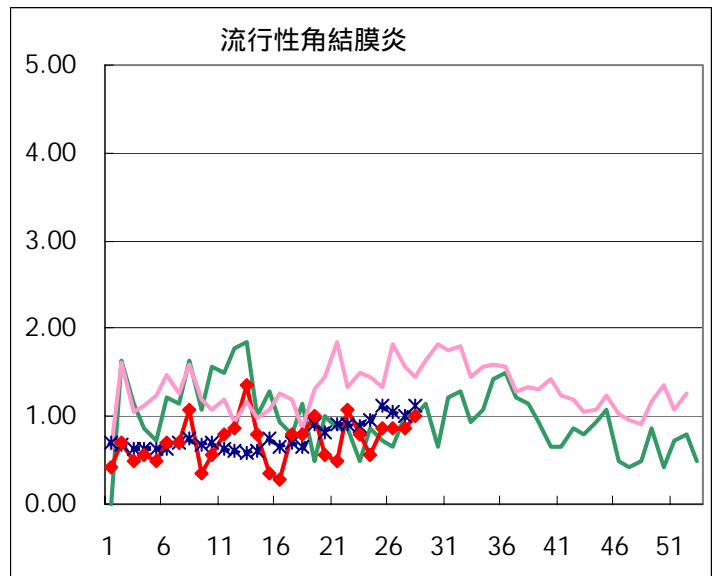
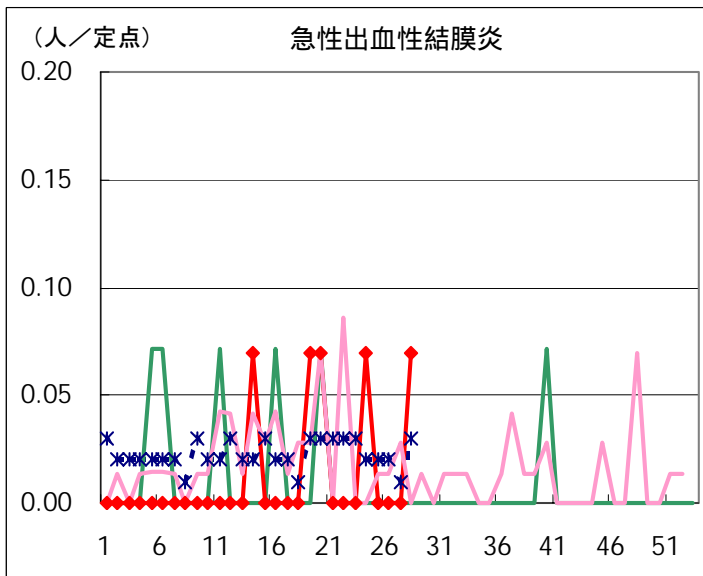
◆ 小児科・インフルエンザ定点



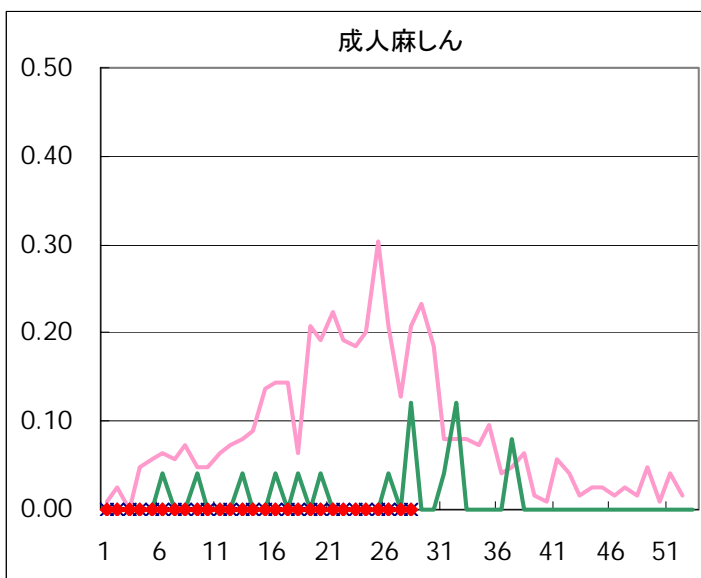
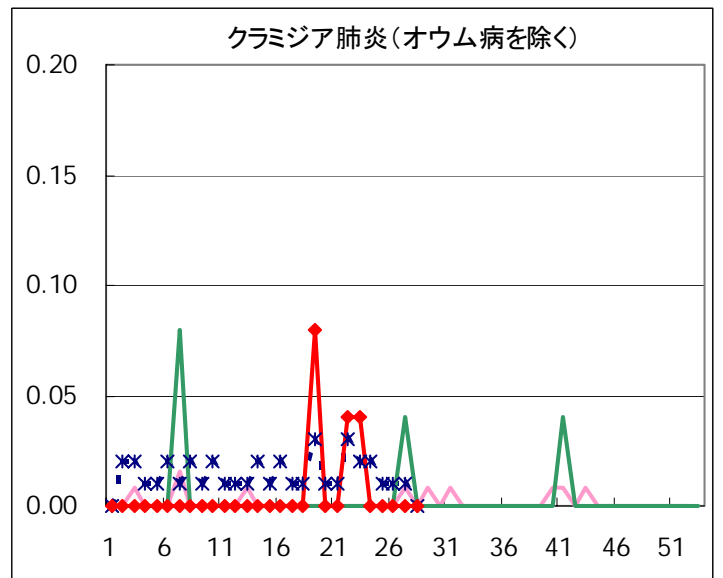
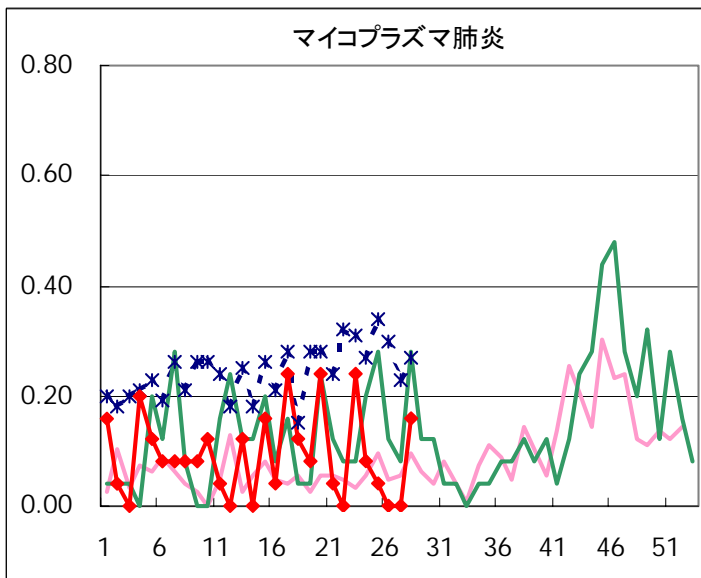
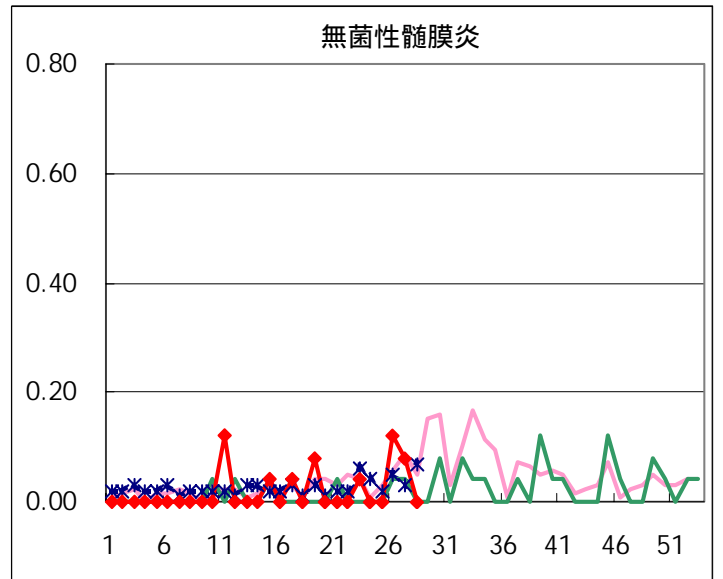
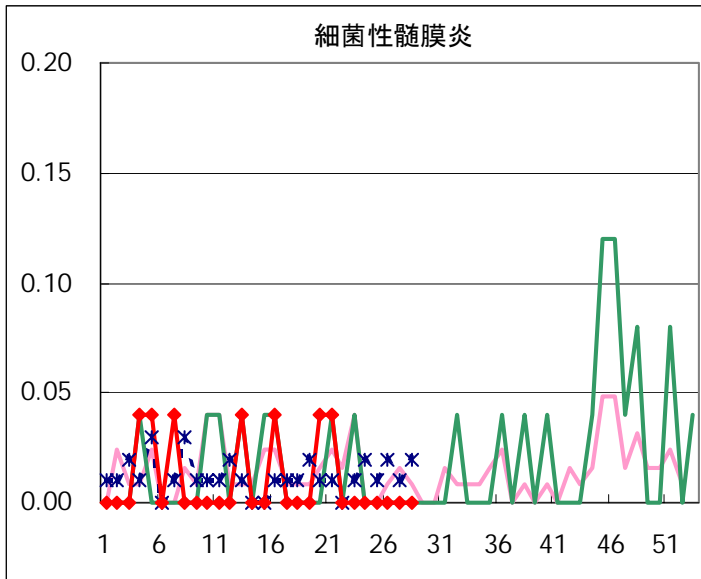




◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



疾患別の定点医療機関数(週単位報告分)		
定点種別	疾患	医療機関数
インフルエンザ	インフルエンザ	178
眼科	急性出血性結膜炎	14
	流行性角結膜炎	
基幹	急性脳炎	25
	細菌性髄膜炎	
	無菌性髄膜炎	
	マイコプラズマ肺炎	
	クラミジア肺炎	
	成人麻疹	
小児科	上記を除く疾病	142

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別】2005年28週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳
千代田								3	1	
中央区				6	6		2		1	
みなと	4		18	27	21	4	2		2	
新宿区				1	14	2	3	2	2	
文京			4		9	1	9		2	
台東				7	11	2	8	3	2	
墨田区				3	3	5	15		4	
江東区			1	2	16	3	9		4	
品川区			6	1	42	5	28		3	
目黒区				4	4	6	1	1	1	
大田区			10	7	41	10	37	3	7	
世田谷			3	2	41	6	7	3	7	
渋谷区			1	2	11	3	13		4	
中野区				11	30	2	6			
杉並			5	20	29	6	8	1	4	
池袋					1	1		1	1	
北区			3	1	5		12	7	2	
荒川区			2	4	16	3	3	3	4	
板橋区				3	13	2		2	1	
練馬区			7	7	11	1	9	8	4	
足立			1	2	7	2	7		1	
葛飾区			2	8	4	6	10	3	3	
江戸川			2	22	8	8	7	2	5	
西多摩			3	9	7	5	87	1	1	
八王子			8		2		12	1	1	
南多摩			1	6	9	5	18	1	6	
町田				11	23	8	34	2	1	
多摩立川			3	2	13	3	8	4	1	
多摩府中			3	14	17	13	15	4	8	
多摩小平			9	13	33	9	8	9	8	
島しょ			1							

東京都合計	4	-	93	195	447	121	378	64	91	-
定点当り報告数	0.03	-	0.65	1.37	3.15	0.85	2.66	0.45	0.64	-

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別】2005年28週

	風しん	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人麻疹 を除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発疹症	MCLS	合計
千代田		4							8
中央区		13		3					31
みなと		14		5	1	1	1		100
新宿区		26		3		5	1		59
文京		14		1		2			42
台東		9		6					48
墨田区		10		3					43
江東区		41		7					83
品川区		25		9			1		120
目黒区		26		6					49
大田区		52		20			1		188
世田谷		40		7			2		118
渋谷区		28		1					63
中野区		32		3			3		87
杉並		21		5					99
池袋		6		3		1			14
北区		78		17			1		126
荒川区		13				1			49
板橋区		8		10			1		40
練馬区		54		6					107
足立		25		3					48
葛飾区		55		5			1		97
江戸川		61		21					136
西多摩		45		9					167
八王子		14		3					41
南多摩		22		3					71
町田		58		6		1	2		146
多摩立川		34		1		1			70
多摩府中		61		16				1	152
多摩小平		127		15		2	4		237
島しょ									1

東京都合計	-	1,016	-	197	1	14	18	1	2,640
定点当り報告数	-	7.15	-	1.39	0.07	1.00	0.13	0.01	

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別・定点当たり】 2005年28週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳
千代田								0.75	0.25	
中央区				2.00	2.00		0.67		0.33	
みなと	0.67		3.00	4.50	3.50	0.67	0.33		0.33	
新宿区				0.17	2.33	0.33	0.50	0.33	0.33	
文京			1.33		3.00	0.33	3.00		0.67	
台東				2.33	3.67	0.67	2.67	1.00	0.67	
墨田区				1.00	1.00	1.67	5.00		1.33	
江東区			0.33	0.67	5.33	1.00	3.00		1.33	
品川区			1.00	0.17	7.00	0.83	4.67		0.50	
目黒区				1.33	1.33	2.00	0.33	0.33	0.33	
大田区			1.11	0.78	4.56	1.11	4.11	0.33	0.78	
世田谷			0.38	0.25	5.13	0.75	0.88	0.38	0.88	
渋谷区			0.25	0.50	2.75	0.75	3.25		1.00	
中野区				1.83	5.00	0.33	1.00			
杉並			0.83	3.33	4.83	1.00	1.33	0.17	0.67	
池袋					0.20	0.20		0.20	0.20	
北区			0.75	0.25	1.25		3.00	1.75	0.50	
荒川区			1.00	2.00	8.00	1.50	1.50	1.50	2.00	
板橋区				0.50	2.17	0.33		0.33	0.17	
練馬区			1.40	1.40	2.20	0.20	1.80	1.60	0.80	
足立			0.25	0.50	1.75	0.50	1.75		0.25	
葛飾区			0.50	2.00	1.00	1.50	2.50	0.75	0.75	
江戸川			0.50	5.50	2.00	2.00	1.75	0.50	1.25	
西多摩			0.60	1.80	1.40	1.00	17.40	0.20	0.20	
八王子			4.00		1.00		6.00	0.50	0.50	
南多摩			0.33	2.00	3.00	1.67	6.00	0.33	2.00	
町田				5.50	11.50	4.00	17.00	1.00	0.50	
多摩立川			0.50	0.33	2.17	0.50	1.33	0.67	0.17	
多摩府中			0.30	1.40	1.70	1.30	1.50	0.40	0.80	
多摩小平			1.50	2.17	5.50	1.50	1.33	1.50	1.33	
島しょ			1.00							

東京都合計	4	-	93	195	447	121	378	64	91	-
定点当り報告数	0.03	-	0.65	1.37	3.15	0.85	2.66	0.45	0.64	-

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別・定点当たり】 2005年28週

	風しん	ヘルパン ギーナ	麻しん (成人麻し んを除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS
千代田		1.00						
中央区		4.33		1.00				
みなと		2.33		0.83	1.00	1.00	0.17	
新宿区		4.33		0.50		2.50	0.17	
文京		4.67		0.33		2.00		
台東		3.00		2.00				
墨田区		3.33		1.00				
江東区		13.67		2.33				
品川区		4.17		1.50			0.17	
目黒区		8.67		2.00				
大田区		5.78		2.22			0.11	
世田谷		5.00		0.88			0.25	
渋谷区		7.00		0.25				
中野区		5.33		0.50			0.50	
杉並		3.50		0.83				
池袋		1.20		0.60		1.00		
北区		19.50		4.25			0.25	
荒川区		6.50				1.00		
板橋区		1.33		1.67			0.17	
練馬区		10.80		1.20				
足立		6.25		0.75				
葛飾区		13.75		1.25			0.25	
江戸川		15.25		5.25				
西多摩		9.00		1.80				
八王子		7.00		1.50				
南多摩		7.33		1.00				
町田		29.00		3.00		1.00	1.00	
多摩立川		5.67		0.17		1.00		
多摩府中		6.10		1.60				0.10
多摩小平		21.17		2.50		2.00	0.67	
島しょ								

東京都合計	-	1,016	-	197	1	14	18	1
定点当り報告数	-	7.15	-	1.39	0.07	1.00	0.13	0.01

五類定点把握対象疾患 患者報告数【年齢階級別】 2005年28週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん
～6ヶ月					9	1	2		4
～1歳			2		29	3	27	2	41
1歳			11		53	24	59	1	41
2歳			10	7	43	27	75	4	5
3歳			7	19	41	18	69	6	
4歳			10	18	41	15	50	11	
5歳			7	33	26	11	28	7	
6歳			9	25	24	10	25	11	
7歳			8	22	27	5	13	7	
8歳			10	25	25	2	7	6	
9歳			8	8	14	1	7	2	
10～14歳			7	19	41	2	10	3	
15～19歳			2	3	9		2		
20～29歳	4		2	16	65	2	4	4	
30～39歳									
40～49歳									
50～59歳									
60～69歳									
70～79歳									
80歳以上									
合計	4	-	93	195	447	121	378	64	91
先週比	-1	-3	-25	14	-68	-39	36	3	-6

注:小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	百日咳	風しん	ヘルパン ギーナ	麻しん (成人麻しん を除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血性 結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS
～6ヶ月			8						
～1歳			92		1			2	
1歳			205		3		1	4	
2歳			177		11		1	1	
3歳			159		35			5	1
4歳			114		42		1	2	
5歳			98		40			1	
6歳			52		25			2	
7歳			44		18			1	
8歳			23		4				
9歳			17		6				
10～14歳			17		9				
15～19歳			1		1				
20～29歳			9		2	1	7		
30～39歳							2		
40～49歳							1		
50～59歳									
60～69歳									
70～79歳							1		
80歳以上									
合計	-	-	1,016	-	197	1	14	18	1
先週比	-3	-2	-47	-2	-41	1	2	4	0

注:小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

病原体・抗体検査情報

週別検出状況 2005年21週～28週

検出病原体・抗体		検体採取週								合計
		2005年								
		21	22	23	24	25	26	27	28	
ウイルス	アデノ	16	6	13	5	9	14	2	7	72
	ライノ	1								1
	ポリオ	2	2				1			5
	コクサッキーA群									
	コクサッキーB群									
	エコー									
	エンテロ71									
	その他のエンテロ	1			3	5	10	9	12	40
	単純ヘルペス					2		1	2	5
	水痘・帯状疱疹							1		1
	ヘルペス6/7	1	3	7	3	2	1	4	2	23
	EB	2		2	2					6
	サイトメガロ	1	2				3		1	7
	ムンプス	2	1	2	2	1	1	1		10
	麻疹									
	風しん									
	パルボB19		2		1					3
	RS							1		1
	ノロ	50	23	10	20	43	3	4		153
	ロタ	3				1	2			6
インフルエンザAソ連型										
インフルエンザA香港型										
インフルエンザB型										
デング										
その他のウイルス		1	4		2	6			13	
細菌	カンピロバクター									
	サルモネラ									
	腸管出血性大腸菌		4	2	5	4	9	2	9	35
	その他の腸管系病原菌		1						1	2
	溶血性レンサ球菌		3	12				2	3	20
	MRSA			9			1	1	2	13
	MSSA									
	その他の細菌									
その他の病原体			1			1				2

臨床診断名別検出結果 2005年21週～28週

臨床診断名 検出病原体	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他の	合計
搬入検体数	1	33	50	812	37	1	1	10	10	1	1	30	6	2	1		223	
アデノ		9	14	8	4	1		3	4		1	6	1				21	72
ライノ			1															1
ポリオ			1	4														5
コクサッキーA群																		
コクサッキーB群																		
エコー																		
エンテロ71																		
その他のエンテロ		7	6	2	4			7	1		6						7	40
単純ヘルペス					2			1									2	5
水痘・带状疱疹しん													1					1
ヘルペス6/7		3									1	11	1	1			6	23
EB												2					4	6
サイトメガロ			3		1												3	7
ムンプス					4								5				1	10
麻疹																		
風しん																		
パルボB19											1	1					1	3
RS	1																	1
ノロ				153														153
ロタ				5													1	6
インフルエンザAソ連型																		
インフルエンザA香港型																		
インフルエンザB型																		
カンピロバクター																		
サルモネラ																		
腸管出血性大腸菌																	35	35
その他の腸管系病原菌																	2	2
溶血性レンサ球菌																	20	20
その他の病原体		2	8														18	28
備考	この表の「その他の病原体」は「週別検出状況」の表にある「デング」「その他のウイルス」「MRSA」「MSSA」「その他の細菌」と「その他の病原体」の合計である。																	

< 感染症豆知識 >

狂犬病

狂犬病の大部分は感染動物に噛まれることにより狂犬病ウイルスに感染して起きる。狂犬病ウイルスは犬、猫、コウモリその他、アライグマ、スカンク、キツネなど多くの野生動物に全世界的に分布しており世界で年間3万5千～5万人が狂犬病によって死亡している。日本では1957年以後国内発生はなく、1970年にネパールで野犬に噛まれて発病・死亡した例があるのみである。近年問題視されているのはコウモリの狂犬病ウイルス関連ウイルスでイギリス、オーストラリア、フィリピン、アフリカ、西ヨーロッパから北欧、東欧、ロシアにかけて分布し、患者、死者が報告されている。潜伏期間は噛まれた部位によりさまざまだが1～2ヶ月が多い。発熱、頭痛、倦怠感、食欲不振、筋肉痛、悪心・嘔吐、咽頭痛、空咳などで始まり、噛まれた部位の疼痛、知覚異常、筋攣縮を伴う。続いて運動過多、興奮、不安狂躁、錯乱、幻覚、攻撃性などの脳炎症状を示し、恐水発作の筋攣縮から最終的には昏睡、呼吸停止で死に至る。一度発病すればほぼ100%死亡する。狂犬病患者からの角膜移植による感染以外ヒト-ヒト感染は報告されていない。感染初期の患者試料からの実験室診断は困難で死後の脳材料からウイルスを検出できる。特異的治療法はない。海外で狂犬病の可能性のある犬、猫、野生動物に噛まれたり、ひっかかれた時は傷口を水と石鹼で洗い流し、医療機関を受診して狂犬病ワクチンと抗狂犬病ガンマグロブリンの投与を受ける。感染リスクのある状況では予めワクチンを接種しておくのも一案である。

(文責 関根大正)